

【学校長コラム】 ツツジを見ながら考えたこと...

梅雨の晴れ間のある日、まぶしいほどの陽光が校庭に降り注いでいました。今年も校庭のツツジが、子どもたちの元気な声に応えるかのように見事に咲き誇り、私たちの心を和ませてくれます。

この美しいツツジも、実は毎年、花が静かに散った後に、来年への願いを込めて丁寧に枝を刈り込んでいます。愛情を込めて手入れを続けることで、年々、花の数が増し、その色も一層深みを増してきたように感じられ、今の喜びにつながっています。

ふと、農作物を育てる「麦踏み」のことを思い出しました。寒い冬にあえて踏みつけられることで、麦は土の中にしっかりと根を張り、春にはより強く、豊かな穂を実らせます。一見すると厳しいこのひと手間が、植物の生命力を引き出す大切な過程なのです。

翻って考えてみれば、成長の真っ只中にいる子どもたちも、同じなのかもしれません。勉強や運動でぶつかる壁、友達との関係で悩む心。思うようにいかないこと、時には悔し涙を流すような挫折や困難も経験するでしょう。しかし、その一つひとつが、子どもたちの心を強く、そして優しく育むための、かけがえのない「麦踏み」なのだと思います。

私たちは、子どもたちが自らの力でその困難を乗り越え、ひと回りもふた回りも大きく成長できるよう、傍らでしっかりと支え、見守っていきたいと思います。

美しく咲き誇るツツジは何も語りません。しかし、その姿は、そんな子どもたちの無限の可能性と、成長のための困難の大切さを、私たちに静かに語りかけてくれているかようでした。

